

イチオシ!

M OVIE

『ファルージャ イラク戦争 日本人人質事件…そして』

「3日以内に自衛隊を撤退させなければ人質を殺す」。2004年4月、イラク戦争のさなか、現地で支援活動を行っていた日本人3人が武装勢力に拘束された。無事に解放されたものの、帰国後の彼らを待ち受けていたのは、「自己責任だ」という厳しいバッシング。そんな彼らは今、何をしているのだろうか。高遠菜穂子さんは、事件後のトラウマを乗り越え再びイラク支援へと向かい、今井紀明さんは対人恐怖症に苦しんだ経験を生かし、不登校やひきこもりの若者の支援に取り組んでいる。いまだ戦禍が広がるイラク、そして日本社会の問題点が、2人の現在の姿を通して見えてくる。



© ホームルーム

2013年／日本／95分
 監督：伊藤めぐみ
 公開：2月8日(土)よりシネマスコレ(名古屋)他、大阪、神戸で順次公開
 URL：fallujah-movie.com/
 配給・問：ホームルーム
 TEL：03-5369-3637

E VENT

『アジア・バレンタイン・フェスティバル2014』

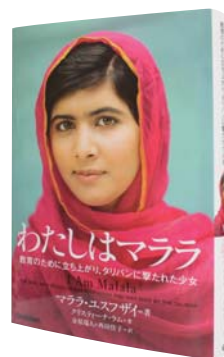
バレンタインデーは、日本では女性が好きな男性にチョコレートを渡す日。しかしタイでは逆。男性が女性にプレゼントを贈るといふ。では他の国はどうだろうか？ そんなアジアの文化・風習を紹介するイベントが東京・代々木公園で開かれる。ベトナムやインドなど各国の本場の味を楽しめる屋台、台湾や香港などの最新映画を紹介するブースなどが並び、ステージではインドネシアの伝統舞踊やタイポップなどが披露される。フリーマーケットでは、なかなか手に入らない伝統衣装や雑貨が買えるチャンス。バレンタイン後の週末、チョコレートを渡した相手と一緒に足を運んでみては。

会期：2月15日(土)、16日(日) 10時～19時
 会場：代々木公園 イベント広場(東京)
 URL：bmi-music.com/
 問：ビー・エム・アイ
 TEL：03-6454-7362

B OOK

『わたしはマララ 教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』

「全ての女の子が学校に行けるようになってほしい」。そう訴え続けていたパキスタンの少女マララが、2012年10月、イスラム武装勢力タリバンの銃撃を受けた。一時は生死の境をさまよいながらも、奇跡的に一命を取り留めたマララ。それでも、彼女の信念は揺らがなかった。16歳の誕生日には、「全ての子どもに教育を与えてください」と、国連本部で世界の指導者を前に演説した。「タリバンに撃たれた少女」ではなく、“教育のために戦った少女”だと思われたい」。そう話す彼女の強さはどこからくるのか。自身がこれまでの半生をつづった手記。



マララ・ユスフザイ、
 クリスティアーナ・ラム 著
 学研パブリッシング
 1,680円(税込)

この本を
 1人の方に
 プレゼント
 詳細は
 38ページへ

B OOK

『戦争がなかったら 3人の子どもたち10年の物語』

2003年、激しい内戦が続いていたアフリカ西部のリベリア。報道カメラマンとして現地で取材をしていた著者は、少年兵として戦う13歳のモモと14歳のファヤ、砲弾で右手を失った6歳の少女ムスと出会う。そこで生まれた一つの縁。内戦が終結してからも現地へ飛び、彼らの生活を追い続けてきた。心に傷を負ったまま将来に希望を見出せないモモ、他人の助けばかりを当てにしてしまうファヤ、自分の命を助けてくれた医者のように人を癒やす仕事を志すムス。あれから10年が経った。戦争は彼らから何を奪ったのか、その実態を探る。



高橋邦典 著
 ポプラ社
 1,575円(税込)

この本を
 1人の方に
 プレゼント
 詳細は
 38ページへ

「11月号特集 ASEAN」そして、「未来へ」を読んで」

■「HIVと共に生きる」が大変印象深かったです。日本に住んでいると、HIV感染という問題は、自分からは遠いところから起きているような感覚を覚えます。ところがこの記事で紹介されていたカンボジアの村では、大家族がHIVの感染者を抱えていて、死の恐怖と生まれながらにして闘っていることを知りました。ASEANの国々は近年めきめきと経済発展を遂げていますが、その恩恵が国民の医療や衛生に一刻も早くつなげてほしいと願うばかりです。
(東京都/女性/23歳)

■「MONO語り」の記事を見て、美濃部さんの気持ちは素晴らしいと思います。仕事がなく、子どもたちが都市に出て行ってしまった後のお母さんたちのことを考えた活動に、この地域の方たちは感謝していることでしょう。そんな現場へ見学に行きたい気持ちになりました。
(北海道/女性/50歳)

■社会の教科書で習ったASEANについて、初めて理解できました。それにしても、40年のつながりには驚きました。これからも、いいパートナーとして絆を深めてほしいですね。
(香川県/男性/54歳)

「12月号特集 研修「見る日本、感じる日本」を読んで」

■海外のニュースといえば、欧米では米国、英国、またアジアでは中国、韓国が中心で、その他の国の情報はほとんど入ってこない。現実には、日本人に好意を持っている国々が多く、我々も草の根活動を通じて、それらの国に対して多大な貢献を行っている。そのような活動を一般の人々が知るためのツールとして「mundi」は有益な手段であると思う。
(神奈川県/男性/52歳)

■海外で、しかし国際協力はなし得ないと思っていたので、この特集は目からウロコです。自分には縁がないと思っていた国際協力を身近に感じられるようになりました。日本にいるからこそできることを取り上げていただきたいです。
(秋田県/女性/33歳)

本誌へのご意見・ご感想や
JICAへのご質問を
お寄せください。

プレゼント
付き

添付のアンケートはがき、Eメール、FAXから、本誌に対するご意見やご感想、またJICAへのご質問を、氏名・住所・電話番号・職業・年齢・性別・ご希望のプレゼントを明記の上、お送りください。ご記入いただいた個人情報統計処理およびプレゼント発送以外の目的で使用いたしません。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

◎応募締切：2014年3月15日

Eメール: jica@idj.co.jp
FAX: 03-3221-5584 (『mundi』編集部宛)

- ① シリアの刺しゅう製品
- ② 書籍『わたしはマララ 教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』(p37参照)
- ③ 書籍『戦争がなかったら 3人の子どもたち10年の物語』(p37参照)



①



②



③

本誌をご希望の場合は
下記方法で
お申し込みください。

申込方法

本誌をご希望の方には、送料をご負担いただく形でご送付いたします。巻末の払込取扱票に、氏名・住所・電話番号・ご希望の送付期間・送付開始月を明記の上、指定の金額を郵便局でお支払いください。入金の確認後、発送手配をいたします(入金から1週間程度かかることもありますのでご了承ください)。複数冊、またはバックナンバーをご希望の方は送料が異なりますので、下記までお問い合わせください。

申込先 (株)国際開発ジャーナル社 総務部(発送代行)
住所 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-2-4 麹町HFビル9F
TEL 03-3221-5583
FAX 03-3221-5584
Eメール order@idj.co.jp



次号予告 (2014年3月1日発行予定)

JICAボランティア

開発途上国の課題解決のため、草の根レベルで活躍するJICAボランティア。彼らは現地では何に悩み、やりがいを感じながら、活動しているのだろうか。その姿を紹介します。

mundi

FEBRUARY 2014 No.5

編集・発行/独立行政法人 国際協力機構 Japan International Cooperation Agency: JICA

〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル

TEL: 03-5226-9781 FAX: 03-5226-6396 URL: <http://www.jica.go.jp/>

バックナンバーはJICAホームページ (<http://www.jica.go.jp/publication/mundi/>) でご覧いただけます。

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。